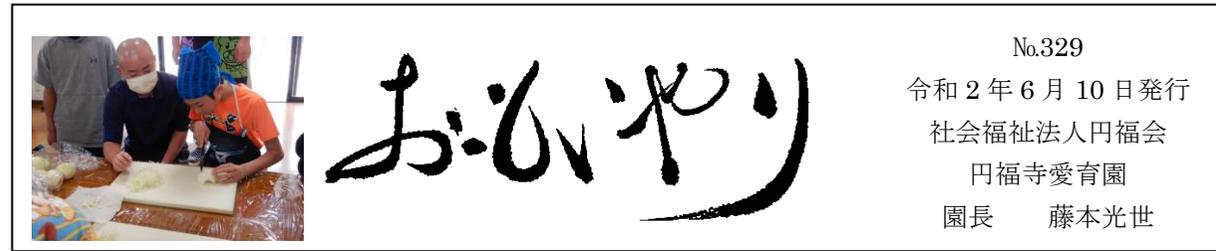


学校再開に向け、勉強頑張っています。コロナに負けず頑張ろう！！



### 課題研究発表会

園長 藤本光世

学校の臨時休校が5月31日で終わり、6月1日から登校が始まります。マスク着用、大勢が触る所の清拭、「三密」の回避などの感染防止を徹底して、クラスターが発生しないように登校の継続を祈っています。

臨時休校が終わるにあたり、愛育園学校の午後の時間を使った「授業」の「自然」「工作」「家庭科」などの研究を、夏休みの自由研究のように、A2の大きさの厚紙に書いて発表してもらうことをお願いしました。「課題研究発表会」です。

ホーム長と相談して、できそうとは感じたものの、先生方の負担を増やすし、子どもは遊びたいだろうし、できるかなあと不安がありました。

私から、発表の書き方を厚紙に次のように大きく書いて示しました。昔、物理の授業でたくさんの生徒実験を工夫して、実験の後は必ずレポートの書き方を指示して、提出させていましたから、こういうのはお手のものです。

1. テーマ
2. テーマ設定の理由 (なぜそのテーマを選んだか)
3. テーマの内容についてあらかじめ調べたこと (図鑑などで調べる)  
(ザリガニはどこにいるか、何を食べているか、いつから日本に来たかなど  
たこ焼きいつから日本にきたか、誰が始めたか、どの地方から広がったかなど)



(令和2年6月10日発行 月刊「円福」477号付録)

4. テーマを研究した日時 場所 (地図で示す、住所で示す、写真で示す)
5. 準備品 準備した材料 (それを作るのにどんなものを準備したか、それを採りに行くのに何をを用意したか)
6. 方法 (採集方法、どこにいたか、どうやって採集したか、どうやって作ったか)
7. 結果 (どんなザリガニが取れたか、どんなたこ焼きができたか 図、写真で)
8. 結論 (分かったこと、できたこと) 短い言葉で
9. 考察 (どうすればザリガニをたくさん捕まえることができるか どうすれば凧が高く上がるのか どうすれば美味しいたこ焼きができるか など)
10. 感想 (面白かったか、つまらなかったか、どんなことがおもしろかったか、どんなことが楽しかったか、またやりたいか など)

5月30日になりました。「発表」ができていかなあと不安でした。「発表」を飾る場所を決めようと児童棟に行くと、談話室に完成した「発表」が置いてありました。その見事に驚きました。それは、カニなどを採集に行った神田川を調べた発表で、なんと厚紙8枚に川の流れの図を大きく書き、そこに下流中流上流超上流の様子が写真入りで説明されていました。この子がこんな素晴らしい発表を作成できるのだと驚きました。富澤ホーム長に聞くとどの子も、このように一生懸命に作成していますよ、とのこと。作品が展示されるのがとても楽しみになりました。

5月31日のお昼に行ってみると、管理棟や児童棟の廊下に子どもたちの作品が所狭しと展示されていました。



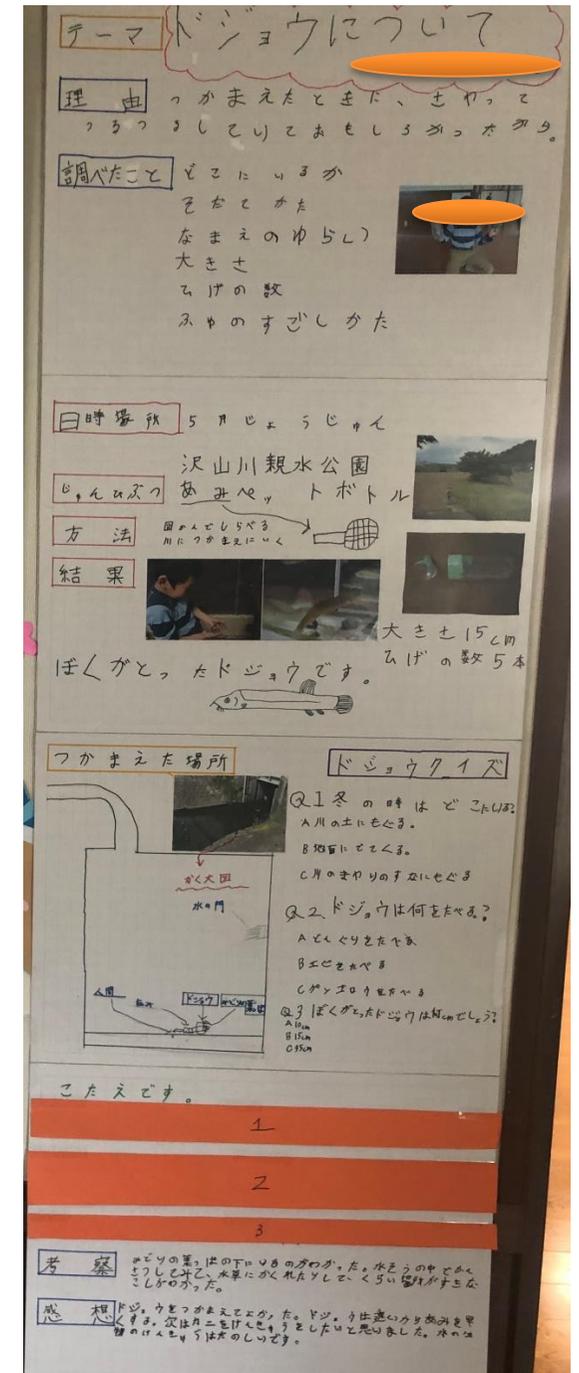
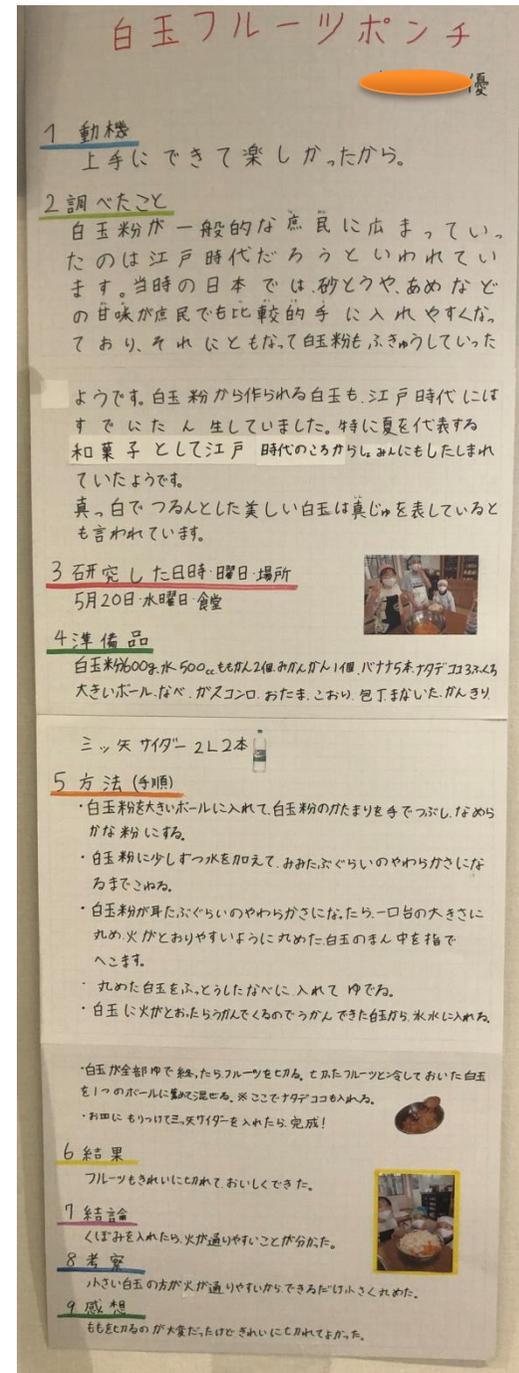
発表をすべて紹介したいのですが、できませんのでおぞらの子と、まごころの子の作品をひとつずつ紹介します。



子どもたちの発表のテーマを書きましょう。いずれも小中高の順です。

あおぞらホーム	まごころホーム
1. ドジョウについて	1. 白玉フルーツポンチ
2. カブトムシの幼虫について	2. ペンケースの作り方
3. カブトムシの幼虫について	3. 美味しいクレープの作り方
4. サワガニについて	4. アイシングクッキーについて
5. カナヘビ採集	5. ラーメン界の名脇役…その名も味玉
6. 空飛ぶ工作	6. おいしい&きれいなたこ焼きの作り方
7. 神田川について	7. おいしいディズニーチェロスの作り方
8. 川遊びについて	8. プラ板がオープンで縮むワケ
9. 二十日大根	9. シュシュの作り方
10. メダカの飼育と観察	10. フルーツ飴について
11. 魚釣りの方法と鮎の生態	
12. 卵焼きとカルメ焼きについて	

小中高生全員が渾身の力を籠め、何日も時間をかけて研究発表を作ってくれました。子どもたちは素晴らしいです。



教育とは、子どもの力を引き出すことです。子どもの力を引き出すとは、子どもを本気にさせ、一所懸命にさせることです。午後の時間を本気に楽しんだ子ほど、良い発表ができていますと聞きました。そして、「発表」…プレゼンテーション…は、子どもたち一人ひとりが楽しんだことをみんなに知らせたいという願いをもって、書いてくれました。この子がこんなにも良い「発表」を作れることを発見し、驚きました。うれしかったです。そして、このような発表を子どもたちから引き出した職員に感謝です。子どもたちは何日もかかってこの発表を作りました。その裏には職員の大きな支えがありました。

自立の力をつけるとは、子どもたちの力を引き出すことです。毎日の生活の時間をおろそかにせず、新型コロナウイルスの襲来という困難に遭っても、できることを考えて、子どもたちの成長を引き出す。臨時休校中の時間を、子どもたちの成長を引き出すことにつなげられた円福寺愛育園『万歳!』です。

#### 課題研究について

あおぞらホーム 石龍成己

園長先生のお話にもありましたが、5月下旬、その課外活動を記録として、園の児童全員（小学生以上）紙に記録としてまとめてみました。短い期間での作成となりましたが、各々真剣に取り組みました。その中の何枚かの紹介文を紹介していきたいと思います。

ぼくは、休校中によく遊びに行っていた、神田川について研究しました。神田川の下流から上流までの景色や流れ、石の大きさの違いや、ダムなどの建造物、植物、生き物などの色々な発見についてまとめてみました。

そして、それを下流から上流までのマップに表しました。なぜマップにしたかというと、下流と上流の違いをわかりやすく見せたかったからです。また、写真を多く使ってわかりやすくしました。

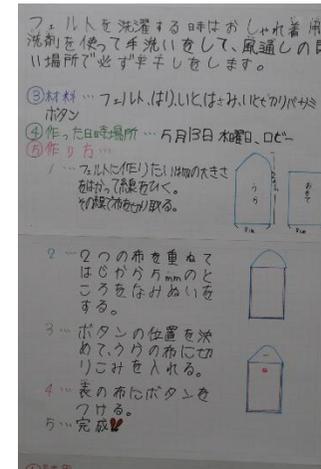
そのために、改めてその場所まで写真を撮りに行きました。ダムなど、ただ行った時は、何も考えなかったけど研究のための写真を撮りに行った時は、何故ダムがあるのか考えるようになりました。

マップにしたのには、もう1つ理由があります。ぼくは、冒険が大好きで、今回の研究がとても楽しかったので、見てくれる人にも冒険の気分を味わってほしかったからです。

今回、自由研究をしてみて、調べるのも、まとめるのも、とても楽しい時間をすごせました。

(あおぞらホーム 中1・R君)

#### 楽しかった自由研究



わたしは自由研究で、ペンケースの作り方をまとめました。水色のフェルトを学校で習った波縫いで縫いました。他にも、フェルトで小物入れやハートのマスコットを作りました。それがとても楽しかったので、みんなに紹介しました。画用紙にまとめる時に、ペンでカラフルにしたことと、字を大きくみやすくしたことが工夫したところです。みんなも、調べたことをわかりやすくまとめていてすごいと思いました。

(まごころホーム 小6・Yさん)

#### 母の日の会

まごころホーム 宮澤穂香

5月の第2日曜日5月10日は母の日でした。

園では『母の日の会』が開催されました。私も子供たちからメッセージが書かれた、色紙とピンク色のカーネーションと手作りのプレゼントをもらいました。

去年は1年目ということもあって、色紙には、まだあんまり話したことはないけれど、と書いている子供たちがほとんどでしたが、今年

は、たくさん話したり、笑ったり楽しくしてくれてありがとうという言葉があり、とても嬉しく思いました。

また、今年のプレゼントのハーバリウムは昨年よりもさらにおしゃれでとても素敵でした。食事を食べるテーブルに飾って毎日見えています。カトラリーも雑貨屋さんで売れそうなほど上手に出来ていましたし、ストラップも可愛くて本当にうれしかったです。そして、私の為に一生懸命作ってくれたみんなの思いを、しっかりと受け止めて、母のような愛情が注げるような人間にならなくてはいけないと、気を引き締めて、接していきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、園で過ごす時間がとても多く、子供たちといつも以上にお話をしたり、遊んだりしています。一緒に過ごす時間を大切にしていきたいです。

## ケーキのプレゼント

まごころホーム 加藤ゆかり



5月17日の夜、卒園したSさんが来園してくれました。Sさんは今、佐久市にあるPETERSというお菓子屋さんで働いています。この日は、園の子ども達と職員のために、社長さんからのケーキのプレゼントを持って来てくれました。PETERSさんのケーキは味はもちろんですが、見た目もとっても綺麗でキラキラしていて、とても目を引きます。子ども達は目を輝かせてとても喜んでいました。そしてみんなで美味しく頂きました。また、子ども達は久しぶりにSさんに会えたこともとても喜んでいました。卒園して、立派な社会人となり、仕事の様子などを話してくれたSさん。子ども達にとってとても刺激的だったと思います。社会に出て頑張っているからこそ、来園して子ども達に喜ばれているのだと思います。私達職員としても誇らしいことです。今園にいる子ども達も、Sさんのように立派な社会人になり、子ども達を喜ばせることが出来る人になってほしいな、と思いました。PETERSさん、Sさん、本当にありがとうございました。

## よもぎ団子作り

あおぞらホーム 山田忍



休校が続く中、愛育園では子どもたちのエネルギーを発散すべく、色々な行事を計画しています。その中で5月16日に小学生みんなでももぎ団子作りをしました。子ども達も職員もエプロン、マスクに着替えて調理実習です。まず、上新粉と白玉粉を混ぜ、熱湯を加えてひたすら捏ねていくのですが、この作業がなかなか一筋縄ではいかず小学生の力では上手に捏ねることが出来ませんでした。

そこで私が代わったのですがとても力のいる作業で汗だくになりながらやっと大きな一塊にする事ができました。今度はそれを一口大の大きさに丸めて真ん中にくぼみを作っていきます。この行程ではそれぞれの性格が出ました。キレイに丸くするまで気が済まない子もいれば、大きさや形が揃

わなくても気にしない子もいました。一方隣のテーブルのまごころの子達はみんな同じくらいの大きさや形に揃えられており、その違いに男の子らしくダイナミックでいいな～、としみじみ思いました。

その後茹でる作業、きなこやあんこをつける作業、の二手に分かれて作っていき、最後はみんなで美味しく頂くことが出来ました。調理実習では火の扱い方など危ない場面もありますが、普段当たり前のようになっている料理はこういう苦勞をして作ってもらっている事など一つ一つの経験を通して色々なことを学んでいってほしいと思います。

## あおぞらホーム食

あおぞらホーム 畔上裕吾

5月3日に、あおぞらホーム食を行いました。ホーム食の内容は、手作りシュウマイと、フルーツゼリー作りをしました。始めに、中高生がシュウマイの材料である玉ねぎをみじん切りにしました。調理の先生方に教えて頂き、みんな苦戦しながらも真剣に取り組んでいました。小学生は、シュウマイの材料である生姜、ニンニクをすりおろす作業を行いました。ここで、シュウマイの餡を作る準備は整い、ひき肉、玉ねぎ、生姜、ニンニクその他調味料をボールに入れて混ぜる作業に入ります。混ぜる作業の時には、高校生のK君とH君が一生懸命に力一杯混ぜてくれました。そしていよいよ最後の工程は、シュウマイの餡を皮に包む作業です。子どもたちは、始め苦戦している様子ではありましたが、試行錯誤の末に、終わりかけには子どもたちそれぞれが思い思いの形のシュウマイを作っていて楽しんでいました。包んだシュウマイはホットプレートを使って蓋をし、水を入れて蒸し焼きにしました。シュウマイを作った個数は数百個を超えており、多い子どもは20個から30個は食べていました。おなかいっぱいになりつつもシュウマイがとても美味しくできたので子どもたちの箸が止まらず、何度もおかわりをしていました。あおぞらホームの先生方や調理の先生方と共に作ったシュウマイの味は子どもたちにとって格別な美味しさになったのではないのでしょうか。

シュウマイをホットプレートで焼いている間に、小学生の子どもたちはフルーツゼリー作りをしました。フルーツの缶詰を使い、そのシロップを使ってゼリーを作りました。ゼラチンを溶かしてシロップと混ぜ、缶詰にゼリー液を戻して冷蔵庫で固めて完成です。ゼリーが固まり、いよいよ缶詰から取り出す時がきました。子どもたちの中で缶詰からゼリーを取り出したいという声が多くあり、ゼリー



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

にも個数があるので一人一缶ずつ取り出すことはできないため、急遽じゃんけん大会が開催されました。ゼリーの個数分まで、じゃんけん勝ち残った人がゼリーを取り出せることになりました。そこでゼリーを取り出す人が決まり、ようやく缶詰からゼリーを取り出す時がきました。恐る恐る慎重にゼリーが崩れないように取り出し、缶詰から綺麗にゼリーが出た時は、うわあーと歓声が上がって大いに盛り上がりました。ゼリーを缶詰から取り出す時の楽しさ、食べても美味しく、とても満足のいくフルーツゼリー作りとなりました。

あおぞらホーム食 児童感想

ホーム食でシュウマイを作りました。シュウマイをいっぱい作りました。カレー粉をかけて肉と醤油と砂糖を混ぜて丸いペラペラのシートみたいなところに丸めて焼いたら完成です。食べた時はカレーのにおいがいっぱい、とても美味しかったです。あと、丸ごとゼリーを作りました。おいしかったのでまた食べたいです。

(小4・S君)

5月3日にホーム食がありました。僕は約6年ぶりにシュウマイを作りました。シュウマイには玉ねぎなどが必要なので玉ねぎをみじん切りにしました。包丁を使ったりしてとても怖かったです。中には、ハバネロなどを入れたので楽しかったです。皮が余ったのでピザを作りました。僕が作ったのはハバネロがたっぷりかかったものです。倉島先生が食べて「辛い！」と言っていました。逆に大山先生は平然と食べていました。デザートには丸ごとゼリーを作りました。缶に入っているフルーツをそのまま固めて冷やしました。缶を取るとフルーツが丸ごと固まっていてとてもおいしかったです。またやりたいです。

(中1・R君)

まごころホーム食



まごころホーム 田中沙季

コロナウイルスの影響で子どもたちも長い自粛生活を送っています。そんな状況ではありますが、施設内で子どもたちが楽しめるよう料理を作ったり、手芸を楽しんだりしています。ホーム食では、ハンバーガーとクレープを作りました。作業ごとにグループを分け、それぞれのグループのメンバーが協力して調理を進めました。子どもたちははてきぱきと動き、やる事がなくなってしまうと他にやることはあるか聞いてくるなど、とても積極的でした。出来上がったハンバーガーは焼いたバンズの上にお肉、玉ねぎ、チーズを重ねバーベキューソースをかけてバンズで挟みました。お店で売っているものよりもかなりボリ

(令和2年6月10日発行 月刊「円福」477号付録)

ュームがありましたが、みんなあつという間に食べ終わっていました。そのあとはデザートのクレープです。子どもたちはクレープの皮の上に生クリームやチョコレートソース、果物など自分で好きなものをトッピングしていき、オリジナルのクレープを作っていました。ハンバーガーもクレープもとてもおいしく、子どもたちもとても喜んで食べており、みんなで作って食べる楽しさも感じていただろうと思います。

おやつ作り

まごころホーム 橋本雅

まごころホームでは午後の活動で、おやつ作りをしました。豆腐たこ焼きやクリームソーダー、アイシングクッキー、白玉フルーツポンチなどを作りました。

私は子ども達と一緒にアイシングクッキーを作りました。色々な型のクッキーを作り、焼いた後にアイシングを作ってクッキーにデコレーションしました。沢山の色のアイシングを使いカラフルなクッキーが出来ました。シンデレラ型や星型など沢山のクッキーをデコレーションできとても楽しかったです。その後、みんなで食べました。とても美味しかったです。他にも色々なおやつ作りをしました。どのおやつも美味しく作ることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。また、みんなでおやつ作りしたいです。

お花まつり・創立記念日のお参り

あおぞらホーム 石龍成己

5月6日、円福寺本堂にて、お花まつり・創立記念日のお参りを、夕方のお参りと合わせ行いました。お釈迦様が生まれになった日を降誕会と言い、その日を記念して、お花まつりという行事を行っています。毎年、円福寺が創立した5月5日にと近いという事もあり、あわせて行っています。

午前中、まごころのホームの子達で花御堂づくりをしてもらいました。色とりどりの花を集め、花びらを、花御堂の屋根に貼り付けてもらいました。今年もとても綺麗に仕上げることが出来ました。屋根が仕上がった所で、お釈迦様にみんなで甘茶を掛けました。お釈迦さまは生まれになった時に、甘露の雨を降らせたという事で、甘茶をかける風習が出来たとのことです。

そして、夕方には、園の子全員が円福寺本堂に集まり、荘厳にお参りを行いました。大きな本堂という事もあり、いつも以上に大きな声を出して、お参りを行いました。園長先生からお釈迦様がお生まれになった時のお話を聞かせてもらったり、創立時の愛育園のお話も聞かせてもらいました。最後に1人1人、お釈迦様に甘茶をかけました。三仏忌の1つが過ぎ、コロナでみんなが自



宅にいる時間が多い所ではありますが、新年度が始まっているのだと実感し、気持ちが新たになる1日でした。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム 金井雄大

コロナウイルスの影響で、小・中・高と休校になり、愛育園の中で日々過ごすようになってから、3か月がたちます。愛育園では、日課を組み学習したりして過ごしています。



あおぞらホームでは、午後の時間に山や川へ行き、カニやドジョウ、カブトムシの幼虫や、トカゲを捕まえてきて、あおぞらホームの中庭は様々な生物がいて、子ども達も手に触れて楽しんでます。山では、さすが子どもたちです、急な坂をグングン登り、ついていくのに職員は必死でした。川では、職員と一緒に水をはきかき遊んだり、カニや魚を一生懸命捜したりと、季節感ある遊びをしていました。また子どもの中には、最初は、カニなど怖がって触れることができなかった子ども、この数ヶ月の間に、平気で触れるようになったりと短い期間でも成長を感じられました。

6月からは、学校も始まり今まで休んでいた分、慣れるまで時間がかかるとは思いますが、学校でたくさんの事を学んでもらいたいです。

まごころホームだより

まごころホーム 竹内早季

今月も引き続き、各学校が休校となり、子ども達が「早く学校に行きたい」と話す回数も日に日に増えています。園内でも感染防止のために職員はマスク着用、最低2回は園内を消毒する、こまめな換気、毎朝の検温など様々な対策を続けています。子どもたちも協力的で、消毒と換気はみんなで一斉に行っています。今後もコロナウイルスに関してどうなっていくか心配はありますが、対策は継続して子どもたちの安全に配慮していきたいと思えます。さて、こうした休校中、各ホームごと子どもたちと充実した生活を送れるように「午後の活動」としてお菓子作りや手芸を計画し、楽しみながら行ってきました。たこ焼き、チュロス、白玉フルーツポンチなど料理をしたり、巾着袋やシュシュを作ったりしました。どの活動も子どもたちが積極的に参加し、毎回楽しい時間を過ごすことができました。そういった活動を一人一つ自由研究のようにして画用紙にまとめ、園内で発表をする機会があるとのことで、それぞれ担当職員と協力して作成しています。自分がどんなことをやったのかが目に見える形で残り、子ども達も達成感を味わうことができました。この休校中、少しでも子どもたちの楽しくて充実した思い出が作れていたらいいなと思えます。

調理室だより

調理主任 伊藤慈子

コロナの影響で学校が休校になっているため、子供たちは平日『愛育園学校』に通い日中を過ごしています。私たち調理は平日休日関係なく、毎日3食、時々手作りおやつを取り入れながら作っています。『愛育園学校』から帰ると、各ホームの活動の時間です。食堂もその活動の場になります。主にお菓子作り、たまに裁縫や実験や工作の場になります。作ったものは、「カルメ焼き」「たこやき・クリームソーダ」「アイシングクッキー」「白玉フルーツポンチ」「どら焼き・求肥(ぎゅうひ)」と、毎回いろいろなものを短い時間の中、工夫してみんなで協力し楽しく作って、【お茶会】を開いておいしく食べていました。調理職員もお手伝いしたからとお茶会に入れてもらい、楽しいひと時を共にしました。

GW中も出かける事が出来ないため、5/3にホーム食をしました。各ホームで作りたい食べたいものを考え、食堂と児童棟談話室に分かれて作りました。ホーム食も回数を重ねているため、メニューもグレードアップしていました。みんなでワイワイ分担して作りおいしく食べました。私たち調理も分かれてお手伝いし、一緒に頂きました。16日には、採ってきた《よもぎ》を使って、小学生とよもぎ団子づくりをしました。少し硬めの団子になってしまいましたが、手作りあんこ・ごまぐるみ・きな粉の3種で味をつけ、全体のおやつにし、作った小学生は【お茶会】をしてたくさんおいしく食べました。5月は他に、6日愛育園創立記念日特別メニュー、10日母の日特別メニュー、14日S君誕生日メニュー、27日H君誕生日メニューがあり、それぞれ工夫し作りました。学校が休校の中、子供たちに学習をしっかりさせ、体育や家庭科や遊びを取り入れ、退屈しないようにみんなが関わられるよう工夫してたくさんの方々のことを実践させてきたことは、とても素晴らしい時間だったと思います。不安で大変な時期でしたが、いい経験になったと思います。

